

品名	フルオロカーボン 32 (ジフルオロメタン)	国連番号	3252
----	---------------------------	------	------

**該当法規・危険有害性**

消 防 法						毒物及び劇物取締法			高圧ガス保安法		火薬類取締法			道路法		
類 別						品 名 (法別表)	毒物	劇物	特定毒物	一般ガス	液化石油ガス	火薬	爆薬	火工品	施行令第19条の12、13に該当	
第1類	第2類	第3類	第4類	第5類	第6類											
									●						●	

特 性	危 険 性			有 害 性			環 境 汚 染 性		性 状			
	禁水性	爆発性	可燃性	有害ガス発生			眼・皮膚に触れると危険	河川への流入注意	固体	液体	気体	水溶性
				常温	加熱時 火災時	水に接触						
		●	●							●		

**事故発生時の応急措置**

- ① 車を安全な場所に移動する。(人家や人込みを避け、できるだけ交通の傷害にならないような場所に移動し、エンジンを停止し、車止めをする。)
- ② 事故の発生を大声で告げ、下記事項を消防署及び警察署に通報し、人を風上に避難させる。
- ③ 火気厳禁。エンジンの熱や火花は着火源になる。
- ④ 容器を覆っているシートを取り除き、ガスを大気に放出・拡散させる。
- ⑤ 風上より、消火、漏れ止め、容器冷却、容器移動等の災害防止措置を行う。
- ⑥ 下記事項を荷主会社、運送会社、地域防災組織等の関係機関へも連絡する。

**緊急通報**      119 (消防署)      110 (警察署)      高速道路の非常電話

[ 緊急通報例 ]

1. いつ	〇〇時〇〇分頃
2. どこで	〇〇市〇〇地区(国・県・市)道〇〇号線 〇〇付近で
3. なにが	「フルオロカーボン (フロン) (高圧ガス)」が
4. どうした	漏れています。漏れて火災になっています。
5. ケガ人は	ケガ人がいます(救急車をお願いします)。ケガ人はいません。
6. 私の名前は	〇〇運送会社 〇〇です。

**緊急連絡** (特に休日・夜間に確実に連絡が取れる部署の電話番号を記入する)

荷主会社		運送会社	
住 所		住 所	
電 話	平日・昼間  休日・夜間	電 話	平日・昼間  休日・夜間

品名	フルオロカーボン 32 (ジフルオロメタン)	国連番号	3252
----	---------------------------	------	------

## 災害拡大防止措置

特記事項	処理剤
------	-----

- ① ガスが漏えいした場合、空気中の濃度が13.8%から29.9%の間では火災や爆発の危険が生じるので、ガスを覆っているシート内に滞留しないよう注意する。
- ② 熱、火花、裸火、高温のような着火源からと遠ざけること。禁煙。
- ③ 液体に接触すると凍傷をおこす。
- ④ 裸火や高温面にふれると熱分解し、有毒ガスを発生させることがあるので接触しないようにする。
- ⑤ 容器内充填圧力 : 25℃で1.69MPa  
 相対密度(ガス比重) : 1.8 (空気を1とする)  
 色・臭い : 無色・無臭  
 沸点 : -51.7℃  
 液密度 : 0.96g/cm<sup>3</sup> (25℃)  
 爆発限界 : 下限 13.8vol.% 上限 29.9vol.% (空气中)

### 漏えいしたとき

- ① 通風を良くして、ガスが滞留しないようにする。付近の着火源を直ちに取り除く。
- ② 防災工具を用い、風上でかつ漏えいしているガスの吹き出し方向の反対側より、容器バルブ又は漏えいしている部分を静かに増し締めし漏れを止める。
- ③ 漏れが止まらないときは、着火源を避け、通風の良好な安全な場所で大気に拡散させる。

### 周辺火災のとき

- ① 容器を安全な場所へ移動する。
- ② 移動することが不可能な場合は、容器の破損防止のために容器及び周囲に散水する。

### 引火・発火したとき

- ① 近くに着火源がなくガスが滞留しない場所で、風上より消火し、漏えい防止措置を施す。
- ② 容器の温度が高い場合は、発火している容器及び周囲の容器に噴霧散水した後、周囲の容器を安全な場所に移動する。
- ③ 周囲及び漏えい状況から判断して、消火するとかえって危険が増すと考えられるとき等は、火災の拡大・類焼を防止するため、周囲に噴霧散水しながら、容器内のガスがなくなるまで燃焼させる。

### 救急措置

- ① 凍傷の場合は、凍傷の部分をこすらず、患部を温湯で徐々に温めて常温に戻し、その後ガーゼなどで保護する。
- ② 多量に吸引した場合は、直ちに患者を毛布等にくるんで安静にさせ、新鮮な空気のある場所に移す。呼吸が停止しているときは人工呼吸を行う。呼吸困難なときは酸素吸入を行う。
- ③ 火傷の場合は、きれいな水や氷で患部を冷やす。ショック状態の場合は頭を低くして寝かせ、暖める。
- ④ 患者が発生した場合は、できるだけ早く医師の手当てを受ける。